

## 第5学年 社会科の実践

- 1 単元名「工業生産とわたしたちの暮らし」  
小単元 暮らしを支える自動車工業

2 単元目標

わが国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにすること。

- ・様々な工業製品が国民生活を支えていること
- ・わが国の各種の工業生産や工業地域の分布など
- ・工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸等の働き

3 「ひびきあう 三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成  
手立て・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり  
ブロックテーマ 「仲間への理解、自立する自分」  
・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にす姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

<聴く・話すについての指導>

「聞く」ことについては、静かに友だちの話を聞ける子が多い。しかし、友だちが何か話しても反応を示さなかったり、下を向いて手いたずらをしたり、と温かい雰囲気では「聴く」ことができないことがあった。また、話す声が小さく、聞こえないときもそのままにしてしまうことが多かった。そうした姿を子ども達と共有し、クラスのルールを作っているところである。特に話し合いの学習をした後などに、振り返るようにしている。聞こえないときは聞く方が静かにしたり、「もう一度話してください。」と言ったり、周りの友だちが言い換えたり、と少しずつ「聴こう」とする姿勢が増えてきている。

「話す」については、担任に向かって話をする子が多い。友だちに聞いてもらいたい、納得してもらいたいというよりも、先生に聞いてもらいたいという思いが勝っているようである。そのため、「クラスみんなで学習している。」ということをも4月から伝え続けている。声の大きさに課題のある子もおり、相手意識を持って話すことの出来る児童は限られている。また、相手の意見が自分と違っていた時、「それってどういうこと?」「そういう意見もいいと思うけどさ・・・。」と相手の意見を受け入れながらも、自分の考えを述べるような姿も見られるようになってきた。

<これまでの関わり合い・ひびきあい>

どの学習においても、授業中のつぶやきはあるものの、発言する子とそうでない子の差がある。クラスに関わることや、代表委員会へ向けての話し合いでも、相手の意図をくみ取りながら活発に意見を言い合える児童と、何を話し合われているのかが分からずにいる児童とに分かれていた。その都度、今話し合っている内容を確認したり、近くの友だちと相談したりする時間を取り、「自分の考えをもつ」ことを保障するようにした。少しずつ、どの子も自分の考えを持つこと、クラスみんなと解決しようと話したり聞いたりできるようになってきている。社会科『わたしたちの食生活を支える米づくり』の学習では、農業に携わる人々の工夫や努力にも目を向けてきた。資料から分かることを見つけ、そこから自分の考えをもつ経験をつんできた。さらに友達のを比較して多様な事実や考えの中から新たな考えを再構成したりする力については、まだまだ身につけていない。本単元の学習の中で、クラス全体で疑問を共有し、みんなで考えたり、解決しようとしたりする姿を大切にしたい。

4 単元と指導

<単元について>

我が国は工業生産が盛んであり、本単元で取り扱う工業製品そのものは、原材料を加工し、その形や性質を変えて生活や産業に役立つものであり、児童にとっても非常に身近なものである。しかし、その作っていく過程や工場、それらを支える人々については、ほとんど目にすることが出来ず、意識されないことが多い。

本小単元では、日本を代表する工業でもある自動車工業を取り上げる。自動車は生産量も生産額も輸出額も大きく、わが国の重要な工業製品のひとつである。その理由として、自動車工業に従事する人々が工夫し、ロボット・機械の活用、関連工場との協力を行いながら様々な工夫や努力を重ねている。また、自動車産業は貿易や運輸などの働きに支えられて生産されていること、さらに環境や人に配慮した車についても具体化されており、それらをつくるために研究・開発を重ねていることなどを手がかりにして、我が国の工業生産が国民生活の向上や産業の発展に果たしている役割を考えられるようにする。

このように、自動車工業について取り上げる中で、日本の工業生産の特色を理解することができる。本小

単元では、調べた事実を基にして、自分の考えを持ち、友だちの考えを比較したり重ね合わせたりしながら、自動車の生産に携わる人々の工夫や努力に目を向けていってほしいと考えている。そこから、現在の日本の工業生産の特色について、さまざまな視点から考えていく授業を展開していきたい。

<指導について>

日本を代表する工業でもある自動車は、児童が実際に自分が運転したり買ったりするわけではないため、その製造工程やそこで働く人々の工夫については、どちらかというとな身近ではないといえる。しかしながら、「将来運転したい。」「乗ってみたい。」という思いを強くもっている、自動車好きな児童も多い。そこで導入では、「どんな車がいいだろう。」という問題から始め、ボディーカラー・シート・カーペット等々いろいろな種類のある中から自分で好きなものを選び、自分好みの自動車を買う疑似体験から入ることにした。全員が自分の好きな自動車を選んだ後、クラスみんなでどういった内容を選んだか、共有していく。共有する中で、一つの自動車でもいろいろな組み合わせができ、たくさんの種類があることに気づかせたい。そこから「こんなにたくさんの種類の車を、どうやって正確に作っているのだろうか？」という疑問が生まれるはずである。作り方を調べていく時もただ調べるのではなく、「たくさんの車を作る工夫」と「正確に作る工夫」に分けて調べていくことで、製造過程に自動車工業に携わる人々が多くおり、そこに従事している人々のたくさんの工夫や努力に触れていけるようにしたい。

完成した自動車がどこへどのように運ばれているのかを調べていくと、国内生産されている自動車の多くが「輸出」されていることに気づくだろう。その中で日本の自動車生産の技術力の高さや外国の人々の暮らしを支えていることを学んでいく。しかし、社会科資料集を見ていくと、年々輸出量は減ってきており、代わりに海外での現地生産が多く行われていることが分かる。本時で問題となるのは、「現地生産が増えているのには何か理由があるのだろうか？」である。資料集には現地生産されるメリットがたくさん挙げられており、現地生産が増えている現状の説明がなされている。さまざまな資料を活用しながら、現地生産をするメリットに気づくようにしたい。調べていくうちに現地生産が増えていくデメリットに気づく児童もいると考える。そのために、本時の中ではメリット・デメリットとなる資料の一部を、どの子も見えて分かるように提示していく。メリットに気づいていた児童は、デメリットの面もあることに気づけるようにしたい。また本時の学習を通して「現地生産」が増えていくことについて、工場見学で実際に働く人に聞いてみたい、という思いに繋がっていくだろう。本時では、資料等から根拠を見つけ、現地生産が増えている理由について調べたことを自分の言葉で伝え、また自分とは違う資料に出会う中で「現地生産が増えていくこと」についての考えをより深めていく姿をひびき合いの姿としたい。

5 単元構想 次頁

6 本時について

(1) 本時目標 「なぜ現地生産が増えているのか」について資料をもとに理由を見つけ、それらを伝え合うことで現地生産の良さに気づいたり、現地生産が増えていくことの課題について考えたりする。【思考・判断・表現】

(2) 本時展開

学習活動					主な支援・留意点【評価】
<p>現地生産が増えているのには、何か理由があるのだろうか。</p>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現地生産」の言葉の意味について振り返り、本時の課題を確認する。どの子も同じ土台で学習に望めるようにする。</li> <li>・自分の調べてきた理由について交流するようにする。話しやすい雰囲気作りのために、聞き方を確認する。</li> <li>・同じ話題からつなげていくことで、同じ話題でも様々な理由があることに気づけるようにする。</li> <li>・友だちの考えで良くわからないところがあれば、質問をしたり、お互いに教えあったりする。</li> <li>特に難しい用語が出た際は、子ども達の様子を見ながら「どういう意味か。」をいろいろな言葉で説明する機会を設け、全員が同じ土台で話せるようにする。</li> <li>・意見を出し終えてから、デメリットについて書いている児童を指名し、「現地生産が増えていくこと」についての考えを深める。</li> </ul>
<p>お金がかからない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人件費</li> <li>・工場</li> <li>・部品、原材料</li> <li>・輸送費用</li> <li>・土地・・・日本よりも広い土地</li> </ul>	<p>現地の人々の働く機会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く場所ができる</li> <li>・国や地域の発展に繋がる・・・経済が豊かになる</li> </ul>	<p>ニーズに合わせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く場所ができる</li> <li>・国や地域の発展に繋がる・・・経済が豊かになる</li> </ul>	<p>早く届ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く場所ができる</li> <li>・国や地域の発展に繋がる・・・経済が豊かになる</li> </ul>	<p>日本の技術が伝わる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その国の人の技術力が向上する。</li> <li>⇒自動車作りのアドバイザーをする人がいる。</li> </ul>	
<p>現地生産には良いところがたくさんある。だからどんどん増えているんだ。</p>					<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「なぜ現地生産が増えているのか」について資料をもとに理由を見つけ、それらを伝え合うことで現地生産の良さに気づいたり、現地生産が増えていくことの課題について考えたりすることができたか。【思考・判断・表現】</li> </ul>
<p>資料①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外に工場を作る費用がかかる。</li> <li>・現地で何かあったときに困る。(紛争・自然災害など)</li> </ul>	<p>資料②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の工場が減り、仕事を失う人が増える。</li> <li>・日本で作った製品が売れなくなる。</li> </ul>	<p>このまま現地生産は増えていっていいのかな？</p>			

5 単元名「工業生産とわたしたちの暮らし」 1. 暮らしを支える自動車 (本時 6 / 10)

単元  
目標

わが国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにすること。

- ・様々な工業製品が国民生活を支えていること
- ・わが国の各種の工業生産や工業地域の分布など
- ・工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸等の働き

自動車を買いたいな！どんな車がいいかな①

ボディーカラー シート カーペット 機能  
 どんな色がいいかな？青？黄色？ シートとカーペットって選べるんだね。値段が違うよ。 うちの車はナビが付いている！  
 みんなの車はどんな風になったのかな？いろいろな酒類ができたね！  
 本当はもっと選べるものがあるんだ。

カラー15種類×シート4種類×カーペット4種類×・・・＝何万種類もある！！

こんなにたくさん選べるの？！すごいね。迷っちゃうね。ノートだけでこんなにたくさんってことは…

でもさ、こんなにたくさんいるの？だれが買うの？ どこで作ってるのかな？

こんなにたくさんどうやって作るのかなあ？ 間違えずに作れるの？ 日本の車と海外の車って違うのかな。

たくさんの種類の自動車を、どのように作っているのだろうか②③

お米のときみたいに、機械を使っているんじゃない？ 工場があるの、知ってるよ。  
 全部ロボットだったりして 人の手じゃないとできないところもあるんじゃないかな？  
 機械かな 人間かな 両方なのかな？

調べ学習を通して、自動車が組み立てられている校庭について理解している。【知識・理解】

どこで組み立てているのかな？⇒平塚に「工場」があるよ！工場は車を組み立てるところだよ。 どの位の人が働いているんだろう？

1日にどのくらい自動車ができるのかな？ たくさん部品があるみたいだよ。⇒3万こもあるんだって！すごいね。

どういう順番で作っているのかな？ そのほかにも企画、開発、テスト、完成ショー

①プレス⇒②溶接⇒③塗装⇒④組み立て⇒⑤検査⇒⑥完成・出荷

☆作業に応じて機械や人が働いているんだ。

機械もたくさん使っているけれど、

☆検査はやっぱり人の手で行っているんだ。

すごく多くの人働いているんだね。

こうして、自動車は作られるのだね。

完成した自動車はどこへ、どのように運ばれるのだろうか④⑤

ぼく達のところへは、キャリアカーや運搬船を使って運ばれているんだね。

海外にも持って行っているよ！ アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパ…いろいろなところへ輸出しているんだね

グラフを見てみると…国内生産しているうちの半分近くが輸出しているんだね。

日本の自動車は性能が良い、燃料が安く済む等、いいところがたくさんあるから外国でも売れるんだ！

パソコンで調べただけで、100年前に作られた自動車、手入れをしてあるから今でも普通に走れるんだって。

日本ってすごい！

資料 現地生産台数と輸出台数の変化⇒輸出が減って行っているよ。 代わりに「現地生産台数」が増えている。

「現地生産」は、輸出をするのではなくって、「海外（現地）に工場を作って、製品を生産すること。」なんだ。

車を壊しているよ！働く場所がなくなったから抗議しているんだって。働けなくなったら困るよね。

今までずっと現地生産が増えているっていうことは「得」があるんじゃないかな？

このまま輸出は減っていくのではないかな。

自動車の流通に果たす運輸の働きについて理解する。【知識・理解】

自動車の多くが輸出されている理由について考える。【思考・判断・表現】

現地生産が増えているのには、何か理由があるのだろうか⑥ (本時)

現地生産が増えている理由

- ・現地の人が働く場所が増える。生活に困らない。
- ・自動車を輸送する費用がかからない。わざわざ輸出しなくて良い。
- ・その国のニーズに合った自動車を早く届けることができる。
- ・現地の販売店で自動車を売ってもらえる。
- ・安く作ることができる。
- ・場所が広い

いろいろないい点があるんだね！

本当に良いところだけだろうか？

- ・逆に日本人が働く場所がなくなってしまう。
- ・日本の技術が日本の中で広まらなくなってしまう。
- ・技術を遠くの国まで教えるに行かなければならない。
- ・事故・災害・紛争が起きると生産できなくなってしまうこともある。

工場見学で実際に働く人はどう考えているのか聞いてみよう

工場見学をしよう⑦⑧

たくさん作るための工夫

- ・リサイクルしているんだ。
- ・部品工場（関連工場）と連携をとっているんだって。

正確に作るための工夫

- ・たくさんの人が関わっているんだね。
- ・検査ではたくさんの項目をクリアできないといけないんだ。

性能の良い車を作る工夫

- ・電気自動車は排気ガスが出ないんだ。
- ・ハイブリッドのしくみってすごいね。
- ・安全にも気を付けているんだ。

研究者の工夫・苦勞、環境への配慮・・・

関連工場とのつながりもあるんだね。いろいろな工場が連携して車を製造しているんだ。

たくさんの自動車を買ってもらうために、どんな工夫をしているのだろうか⑨

はじめに見つけたみたいに、お客さんの好みに合わせていろいろな種類の車を用意してあるんだよ！

自動車を売っている人・お客さん（家族）に聞いてみよう！

<安全な自動車>

- ・衝突実験
- ・エアバック
- ・シートベルト
- ・自動運転
- ・衝突回避

<誰でも使いやすい自動車>

- ・運転しやすい
- ・車椅子の人も乗れる
- ・小さい子でも乗り降りしやすい

<環境に優しい自動車>

- ・電気自動車
- ・リサイクル
- ・ハイブリッドカー

自動車の開発について、どんな工夫や努力があるか、資料を集めて調査している。【技能】

自動車作りを考えよう⑩

働く人の努力や工夫をもとに、自分達で車を企画してみよう！製造工程の一番はじめだね。2年前から構想を練るんだよ。

本当に作られるかも、しれないね。大人になったら自動車を作りたいな！

## 7 実践を終えて

### (1)子どもとどのように単元を作ってきたか(本時まで)

本学級の子どもたちの中には、自動車の見た目の格好良さに惹かれている子が多く、「将来はこんな車に乗ってみたい。」「運転してみたい。」という思いの強い子が多かった。本単元の導入では色の種類やオプションも豊富な「自動車を買う」疑似体験からはじめることにした。自動車に興味のある子もなかった子も、同じ体験をすることで共通の土台に立つことができると考えたからである。子ども達は自分の思い思いの自動車をカスタマイズした。全員が自分の買いたい自動車を発表する中で「こんなにたくさんの種類の自動車が作れるんだ。」という驚きに出合った。また、その驚きから、「なぜこんなにたくさんの種類を選べるようにしているのだろうか?」「間違えずに作れるのだろうか?」という疑問へとつながっていった。

そこから製造工程や、日本の自動車の良さを調べていくことになった。調べ学習の中で、多くの人々が製造に携わっていること、間違えずに消費者のもとに自動車を届ける工夫やそこで働く人々の思いにまで気づくことができた。学習を進めていくと、日本の自動車が海外の人からも信頼を集め、輸出されていることにも気づいていった。そこで教師から、「現地生産台数と輸出台数の変化」についての資料を提示した。この資料からは輸出台数よりも現地生産台数が増えていることが読み取れる。現地生産の言葉の意味を調べると共に、「現地生産が増えているのには何か理由があるのだろうか?」という学習問題が生まれた。本時までには学習問題について、子ども達一人ひとりが調べ学習を進めてきており、本時の中で交流することになった。

### (2)本時での様子、今後の課題について

#### <成果>

本時の「現地生産が増えているのには何か理由があるのだろうか。」という学習問題は本学級の子どもの実態に即しており、「このまま現地生産は増えて良いのだろうか?」という新たな問題意識を持つための土台となっていた。一人ひとりが本時の学習問題についてよく調べてあったこと、教師からのコメントも書かれていたことから、自分の調べてきたことについて自信をもって意欲的に発言することができる子が普段の学習と比べても多かった。一生懸命自分の言葉を友だちに伝えようとする姿もあった。意見交流の中で「タイムロス・歯止め・ニーズ」など子どもたちにとって難しいと思われる言葉について、教師の声かけで立ち止まったことは、言葉の意味を確認すると共に、友だちの意見について考えるきっかけとなった。そうすることで「今の意見に付け足しで・・・」と話題がつながっていく場面もあった。

授業内で教師から提示したグラフや写真などの視覚資料は、話し合いが難しい子にとっても分かりやすかった。話し合いの中にも、視覚資料と友だちの意見とを結びつけながら発言する姿も見られた。

#### <課題>

本時の学習問題は、学級の子どもの実態に即してはいたが、「解決したい問題」とはなっていたかという点については課題が残った。本時目標にあった「現地生産が増えていくことの課題について考える。」という姿まで至らず、「課題について知る。」にとどまってしまった。本時の学習は「課題について考える」というところに、つながる姿であったといえる。

話し合いの場面では、友だちの意見に対する反応として「いいと思います。」以外の反応が広まっていくとよかった。そのためにも教師から「どこがいいと思ったの?」と切り替えしたり、「付け足しで・・・」や「違うことも言っている?」という授業の中で見られた反応の仕方を認めたりしていく必要があった。また、聞く姿勢に加え、話す姿勢についても普段から指導を積み重ねていくことが大切であると感じた。中には調べてきた言葉や文章が難しくても、よく分からないままにただ教科書や資料集にあった文章を写してそれを発表するだけ、という子もいた。子どもたちから友だちの意見に対し、「それってどういう意味?」と言える雰囲気作りをすること、さらに発表する側は自分の言葉に責任をもち、誰にとっても分かる言葉で発言することを意識できるようにしていきたい。そうした姿が広まっていくと、子どもたち同士で話し合いを深めることができるだろう。

一方、意見交流をしていく中で、ノートに自分の調べてきたことについての不足分を書き加えている子がいた。学習の過程を自ら記録することを通して、自分が発言する時だけでなく聞く時間も常に問題について「考える」ことができる。話し合いが始まったら、自分の考えやまとめたことについて加除修正できるように声をかけていきたい。授業終了時に振り返りを書く際も、「学習感想」ではなく、「現地生産についてどう思ったか。」「今後どうしたら良いか。」と、書く視点も提示することで次時の学習問題へと子ども達の気持ちにつながっていくと感じた。

本時の流れにとどまらず、単元やその教科の学習を通して、「子どもが自ら学ぶにはどうしたらよいか。」と常に考えることが大切であると改めて感じた。子ども達が自ら問題となる資料を見つける、自分たちで資料を使える姿が見られるようになることが今後の目標である。普段の学習の積み重ねを大切に、子どもたちが学習問題を作っていく姿や、話し合いを深めたり、ひびき合ったりする姿の見られる授業につなげていきたい。